

田村市

高齢者を見守るネットワーク構築に向けて

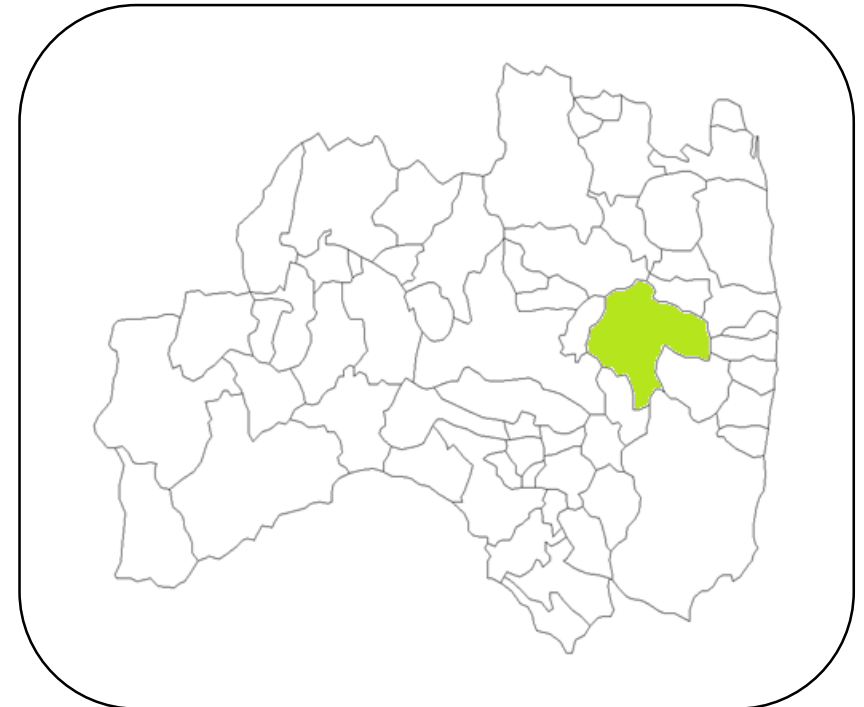
【田村市の概況】

田村市は、阿武隈高原の中央に位置し、福島県の中通りにおいて浜通りとの結節点となる地域です。市の面積は458.33平方キロメートルで、土地利用区分をみると、全体の約67%を山林が占める典型的な中山間地域です。

【基本情報】

平成28年4月1日現在

| | |
|-------------|---------|
| ●人口 | 38,686人 |
| ●65歳以上高齢者人口 | 12,086人 |
| ●高齢化率 | 31.4% |
| ●要介護認定率 | 20.0% |
| ●第1号保険料月額 | 5,400円 |



取組の内容①

●背景

平成26年度より誰もが住み慣れた地域でその人らしい生活を継続することができるよう、保健・医療・介護の関係機関及び団体が連携強化して地域における包括的なケアを推進することを目的に担当者会議を設置し、認知症高齢者ケアの推進について様々な検討を行った。

特に、認知症高齢者の方が徘徊して行方不明になった際に、関係機関が連携して捜索を行い、高齢者の早期発見と安全を図るネットワーク構築と高齢者の救急対応時に救急隊員が本人の情報を迅速に把握するための緊急連絡カードの作製を行った。

●取組のポイント

* 先進地視察

山形県寒河江市の取り組み状況を視察し、本市での取り組みを検討

* 関係機関との打ち合わせ、説明

田村市情報配信メール実施担当課と体制についての打ち合わせ

田村警察署、田村消防署との打ち合わせ

民生委員、ケアマネージャー等への事業説明

おかえり支援事業

●事業内容

認知症の高齢者の方が外出した際に自分がどこにいるのかわからなくなったり、自宅に戻れなくなった時に、早期に発見できるように、高齢者の方の情報を事前に登録し、高齢者本人の安全と家族への困るための事業。

1. 家族等から市に対して、高齢者おかえり支援事業登録申請
2. 地域包括支援センター職員による登録申請者宅へ訪問調査及び、見守りグッズの配布
＜見守りグッズ＞

ネームプレート



名刺



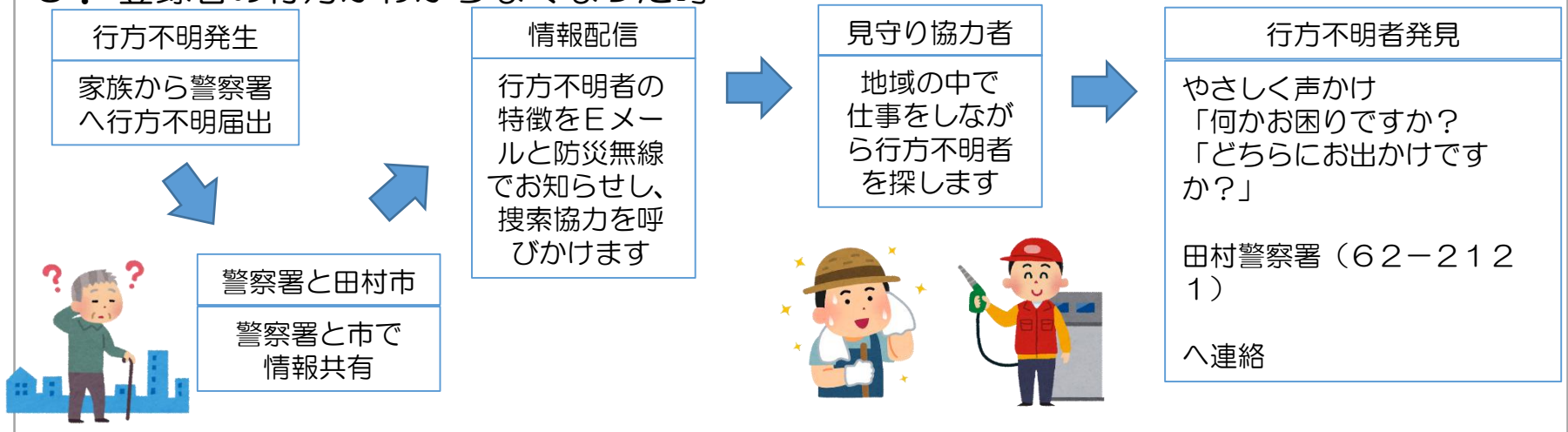
靴ネーム・反射材



アイロンプリントネーム



3. 登録者の行方がわからなくなった時



緊急連絡カード

●事業内容

高齢者等の安心・安全を確保するために、かかりつけ医や持病などの医療情報、緊急連絡先などの情報を事前にカードに記載し、冷蔵庫に貼って保管しておくことで、万が一の緊急時に備えるものです。

「もしも・・・」のときに、かけつけた救急隊員などがカードの情報を確認することで、迅速な処置や救急搬送が可能となり、ご家族への連絡もスムーズに行うことができます。

●配布対象者

- ① おおむね65歳以上のひとり暮らし高齢者
 - ② おおむね65歳以上の高齢者のみの世帯の方
 - ③ 一人になることが多い、おおむね65歳以上の高齢者
- * 介護認定を受けている場合は、地域包括支援センターとケアマネジャーが設置を推奨します。①②で介護認定を受けていない方は、民生児童委員が設置を推奨します。



緊急情報カード
◎消防（救急・火事）＝119
～緊急時における救急隊員などへの情報提供カードです～

記入日（登録日） 年 月

| | | | |
|-------|-------|------|------------------------|
| 住所 | 田村市 町 | 電話番号 | 田村市 (A・B・O・AB 別) (+・-) |
| 性別 | 男・女 | 生年 | 月 日 |
| 緊急連絡先 | ひらがな | 姓 | 名 |
| ① | ひらがな | 姓 | 名 |
| ② | ひらがな | 姓 | 名 |

現在治療中の病気 ① ② ③

かかりつけの病院 ① ② ③

服用している薬 (お薬の説明書を一緒にケースに入れておきましょう。)

アレルギーマーカーの有無 無・有（その内容）

その他（救急隊・医師に伝えたいこと等）

民生児童委員 氏 名 電話番号

ケアマネジャー（介護認定を受けている場合） 担当姓名 電話番号 事業所名

緊急連絡先

| | | | |
|---|------|---|---|
| ① | ひらがな | 姓 | 名 |
| ② | ひらがな | 姓 | 名 |

※上記の記載内容は、その目的の範囲内で、救急隊、医療機関、関係機関が使用します。

成果と課題

取組の成果

- 警察署、消防署の方と打ち合わせをすることにより、関係づくりができた。
- おかえり支援事業、緊急情報カードの資源ができた。運用をすることで改善点や課題が具体的に became.

今後の展望

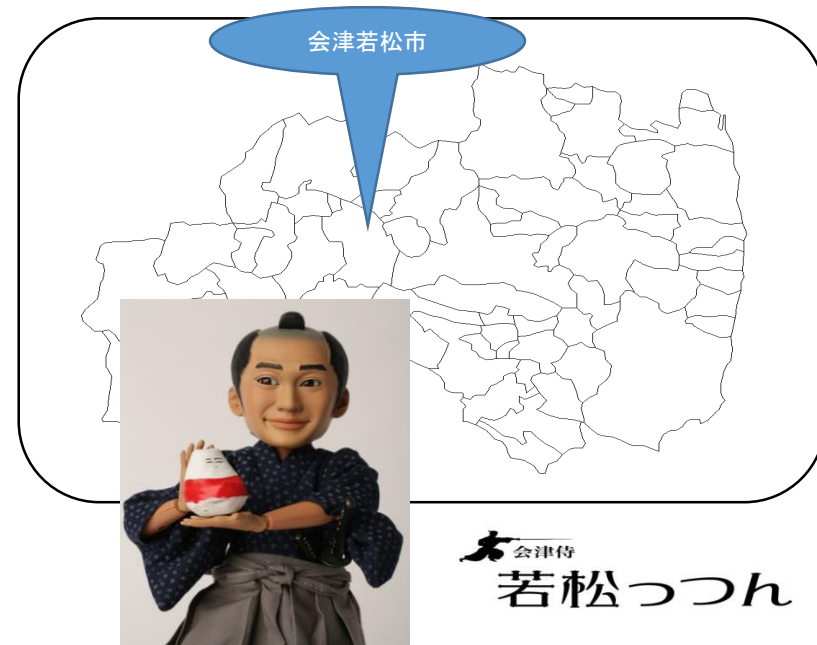
- おかえり支援事業の更なる周知
登録に結びつくような事業周知
認知症の理解、家族支援の理解、見守りできる地域づくり
- 徘徊模擬訓練の実施
- 認知症の人が外出したまま行方不明となる事案は今後増え、歩く範囲は市町村の圏域を超えてしまう場合
も少なくない状況である。このことから、広域的な取り組みが必要と考えられる。
(先進地である山形県では、市独自での取り組みでなく全県をあげて取り組みをしている。)

【会津若松市の概要】

福島県の西部に位置し、磐梯山や猪苗代湖など豊かな自然に囲まれた、自然景観に恵まれたまちです。江戸時代には会津藩の城下町として栄え、若松城（鶴ヶ城）や白虎隊などの観光資源や、酒・漆器等の地場産業が有名です。会津の三泣き（会津に来たときはその閉鎖的な人間関係に泣き、会津の地元になじんでくると今度は人情の深さ泣き、会津を去るときは会津人の人情が忘れ難く泣く）と言われるように、地元への愛着が強い地域です。

【基本情報】（平成28年4月1日現在）

- 人口 121,802人
- 65歳以上高齢者人口 34,426人
- 高齢化率 28.3%
- 要介護認定率 20.4%
- 第1号保険料月額 5,850円
- 日常生活圏域 7圏域
- 地域包括支援センター 7ヶ所
- 認知症地域支援推進員 4名
（市1名・包括 3名）



行政に配置された役割

- 認知症に特化した介護サービス事業所を訪問し、職員の声を聞いた。
 - 「行政はもっと現場の大変さをわかってほしい！」
 - ⇒ 行政と事業所との架け橋

- 認知症対応型事業所（全会津認知症ケア連絡協議会）の勉強会に参加
 - 認知症ケアの質向上を目指した勉強会を2ヶ月に1回、9ヶ所の事業所が持ち回りで開催

- 顔の見える関係とケアの質の向上
 - 研修を協働することでさらに他職種、他事業所とつながる
 - 人材を生かして、認知症ケアの質の向上

地域包括支援センターに配置された役割

●地域住民とのつながり

○ケア会議

○認知症サポーター養成講座での啓発とさらなる広がり
⇒ボランティア養成と認知症カフェ

●地域の事業所とのつながり

○認知症サポーター養成講座を協働で開催

●地域の医療とのつながり

○開業医との情報共有

成果と課題

取組の成果

- 顔の見える関係づくりにより、つながりが拡大した。
- 医療・介護・地域の連携がとりやすくなった。
- 認知症カフェが増え、地域づくりの一助になった。

今後の展望

成果は、すべてが十分とはいえず、課題でもある。
地域で一人を支える仕組みづくりが必要

石川町

住民と一緒に取組む認知症の人にやさしいまちづくり

【石川町の概要】

石川町は中通り南部、阿武隈高地の西側に位置し、豊かな緑と美しい自然に包まれ、長い歴史と伝統を伝承し石川地方の中心都市として発展してきた。明治前期“自由民権運動”の発症の地であり、春には、街の中央を流れる2つの川沿いに2000本の桜並木が一斉に花開き、多くの観光客が訪れる。

【基本情報】

平成29年1月現在

●人口

15,879人

●65歳以上高齢者人口

5,288人

●高齢化率

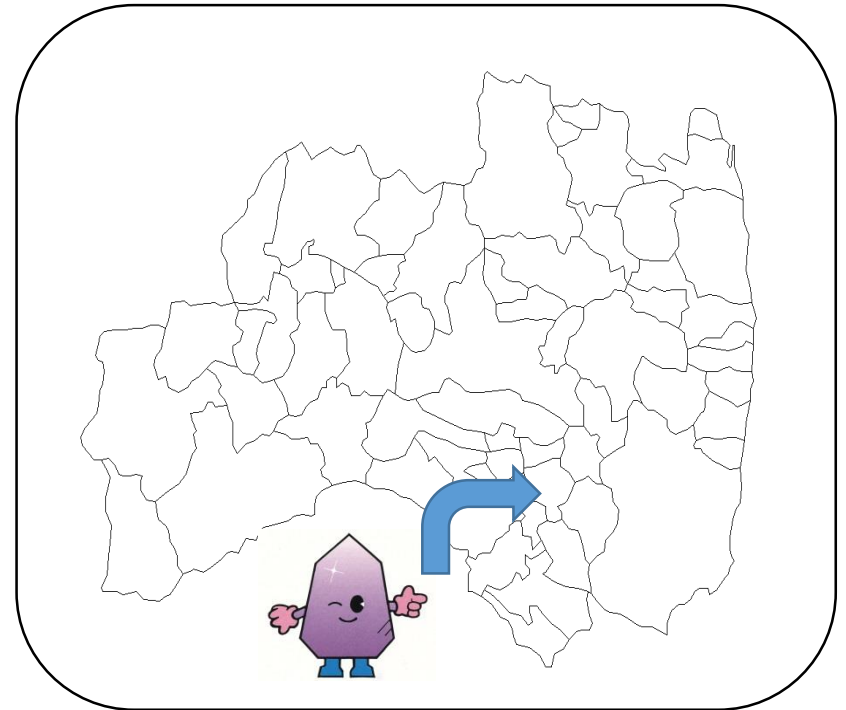
33%

●要介護認定率

17%

●第1号保険料月額

5,600円



①住民が活躍する認知症サポーター養成講座

●背景

平成18年度から、地域包括支援センターの業務としてスタート。地域の中に1人でも認知症の理解者を増やし、認知症になってもできるだけ住み慣れたところで暮らし続けられるようにとの願いを込めて実施。

●事業内容

地域包括支援センターと住民キャラバンメイトで実施。
対象は、地区のサロンや長寿会、婦人会、消防団、小中学校など。平成27年度からは、郵便局、薬剤師会、警察署、歯科医院など、高齢者と接する機会が多い団体に向けて開催し、受講した団体には『認知症サポーターがいます』のステッカーを交付するようになった。

●取組のポイント

石川町の一番の特徴は、住民にキャラバンメイトの養成講座を受講してもらい、専門職だけではなく、住民キャラバンメイトと一緒に講座を進めていること。住民キャラバンメイトの意見から、講義形式ではなく、寸劇を取り入れる形とした。また対象者に合わせて内容を変えているのも、特徴。子供や住民には、自分達にできることを考えてもらい、関係機関には、実際の対応を経験してもらうことで、どのような対応が必要か、何ができるかを考えてもらう。

②認知症ボランティアと作り上げる認知症カフェ

●背景

平成28年3月から、認知症カフェ『話・和・輪の広場』の開催をスタート。認知症カフェをスタートするにあたり、カフェで活動してくれる認知症ボランティアの養成を実施した。

●事業内容

毎月21日に、認知症ボランティア・在宅介護支援センター・社会福祉協議会・地域包括支援センターで共同開催。今年度は、内容などは決めずに、一緒に穏やかなひと時を過ごす形で実施。開催場所の同一敷地内にある障がい者施設の人たちや、保育所の子供たちの交流も実施。

●取組のポイント

認知症ボランティア養成講座では、認知症の基礎知識・実際の対応など、実際の場面で活用できるよう認知症に特化した内容を学んでもらった。カフェでは、認知症の本人や家族の話を聞いてもらうなど、ボランティア自身ができる活動に取り組んでもらっている。

成果と課題

取組の成果

- 認知症サポーター養成講座の開催数、87回。2,844人のサポーターが誕生。石川町に認知症の理解者がたくさん増えた。
- 住民キャラバンメイト、認知症ボランティアなど、住民資源が多くあることは、わが町の強み。

今後の展望

- 認知症サポーター養成講座を、更に多くの団体に向け開催し、認知症の理解者を増やしていく。
- 認知症ボランティアの活躍の場の拡大。認知症カフェだけではなく、施設への派遣、最終的には個人への支援につなげていきたい。

